

## ＜愛教大活性化部門＞

# 愛知教育大学70周年記念パラスポーツ運動会の実施

代表者 北谷 優希（特別支援学校教員養成課程・2年） 他 学生20名 教員1名

## 1. 活動概要

私たちは昨年度、「平成30年度スポーツ庁委託事業オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（パラリンピック教育普及啓発事業）全国横断パラスポーツ運動会 中部ブロック」に参加した。そこで、私たちはパラスポーツ競技が、年齢、性別、障害の有無に関わらず、誰もが楽しめるものであることを知った。

現在、2020年度に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに世間の注目が集まっている。以前は、オリンピックばかりが脚光を浴びていたが、近年は、パラリンピックの動向や結果も報道されるようになり、日本においても、パラスポーツに対する関心の高まりがうかがえる。

しかし、実際にパラスポーツを身近に体験する機会は、ほとんどないのが現状である。私たち自身も、実際に体験するまでは、パラスポーツについての知識も少なく、楽しさを知らなかった。パラスポーツの魅力は、見るだけでは分からず、実際に行ってみないと実感することができないものである。

そこで、本学においてパラスポーツを体験できる場を提供することで、パラリンピックやパラスポーツに対する関心を更に高めるとともに、共生社会の実現への一歩につなげたいと考えた。

## 2. 実施状況

【令和元年6月】

あすチャレ！運動会事務局へ愛知教育大学にてパラスポーツ運動会を実施したいことを打診し、協力を依頼する。

【令和元年7月】

学生チャレンジプログラムに参加メンバー内の役割分担を行う。

13日：刈谷市で行われた「第1回社協ボッチャ大会」（主催：刈谷市社会福祉協議会）に参加する。2回戦敗退。

27日～28日：「2019 あいち電動車椅子サッカーアカデミー」（主催：愛知県電動車椅子サッカー協会）に参加する。

【令和元年8月】

18～22日：ボッチャ競技者（特別支援学校中学部在籍）からの聞き取り。

【令和元年9月】

大学近隣の小学校、地域の特別支援学校や福祉団体、附属特別支援学校を訪問し、参加の呼び掛けを行う。

【令和元年10月】

「愛知教育大学70周年パラスポーツ運動会」のポスターと参加申込書を作成する。

また、運動会当日に向けて、案内板やスタッフバッジ、参加記念品の作成を行う。

19日：中間報告会にて進捗状況を発表

21日：マスコミに向けたPR活動（愛知教育大学定例記者懇談会にて）

【令和元年11月】

◎令和2年11月10日（日）

愛知教育大学創立70周年記念ホームカミングデーにて「愛知教育大学70周年記念パラスポーツ運動会」を開催した。

実施競技：ボッチャ・ゴールボール・車椅子ポートボール  
体験会：電動車椅子サッカー体験（愛知電動車椅子サッカー協会との共催  
ボッチャ体験（運営スタッフにて）



写真①：車いすポートボールの様子



写真②：参加者全員で記念写真を撮影

#### 【令和元年12月】

「愛知教育大学70周年記念パラスポーツ運動会」の反省会議を行った。

#### 【令和2年1月】

19日：中部大学春日丘中学校体育館にて高校生に向けてミニパラスポーツ運動会を開催した（愛知教育大学70周年記念に参加していた。中部大学春日丘高等学校からの依頼）。

#### 【令和2年2月】

28日：成果発表会

### 3. 成果

令和元年7月に参加した「第1回社協ボッチャ大会」や「電動車椅子サッカーアカデミー」では、今まで関わったことのない方々とも競技を通じて自然と打ち解けることができた。真剣に競技と向き合う人々の想いに触れ、改めてパラスポーツの魅力を知ることができ、パラスポーツが広がっていくことが、共生社会の一步につながる

と確信した。

令和元年11月のパラスポーツ運動会では事前の宣伝効果もあり、参加者や観戦者を含めると120人（参加年齢2歳～81歳）もの人が愛知教育大学第1体育館に集った。肢体不自由の方、視覚や聴覚に障害のある方、発達障害のある方など、障害も性別も様々な方々が参加した。もちろん健常者の方も参加しており、まさに我々が目指していた「ごちゃ混ぜ運動会」となった。

運営側として、初めての開催ということで、誰もが困らない環境づくり、楽しく参加できるための工夫に尽力した。思考錯誤をしながらスロープがないところには、鉄板で自作スロープを作ったり、競技の合間の時間にボッチャ体験ができるようにしたりとできる工夫を行った。

結果、愛知教育大学70周年記念パラスポーツ運動会は、あすちやれ！運動会事務局の方々の協力もあり、大成功を収め、パラスポーツの普及にも大きく貢献することができたと考えている。様々な人が力を合わせ、協力したことで自然なコミュニケーションが生まれ、相互理解のある共生社会の一步になったと考える。

また、運動会当日、参加していた中部大学春日丘高等学校のインターアクトクラブ顧問より「高校生に対してもパラスポーツ大会を行なってほしい」という依頼をいただいた。そこで、学内で開催予定であったミニパラスポーツ運動会の企画を変更し、1月に中部大学春日丘中学校体育館に私たちが出向きミニパラスポーツ運動会の運営を自分たちだけで行った。高校生たちは初めてのパラスポーツ体験ということで、その楽しさや難しさを感じながら、チーム一丸となり熱中して取り組んでいた。このミニパラスポーツ運動会には、高校生だけではなく、放課後等デイサービスの職員の方や利用者の方も興味をもち来て参加してくださっていた。

この1年間の活動から、私たちの目標であったパラスポーツを広めること、そして、共生社会の一步は踏み出すということは、達成できたと考える。

#### 4. 今後の展望

1月に実施したミニパラスポーツ運動会に来てくださっていた放課後等デイサービスの職員の方から「春日井市障害福祉センターで障害者、健常者合同のボッチャ体験会の運営、補助をしてほしい」という新たな依頼を受けた。このように、我々が実施した運動会を通してパラスポーツに興味をもった方などから声を掛けていただき、この活動は今年度で終わるのではなく、これからも続ける必要があると考えている。今後は、パラスポーツの普及を取組の一つとしながら、共生社会の実現に向けた取組を継続して行いたい。

#### 5. 決算

予算：400,000円、残額：-164,810円※

費目	支出額
○ 消費税	51,146円
小計	51,146円
○ 消耗品 景品作成(リボン×16、仕切り板×3、安全ピン×1)	2,200円
小計	2,200円
○ 旅費 運送費	116,000円 210,000円
小計	326,000円
○ 運営費	136,364円
小計	136,364円
○ その他 イベント傷害保険 一般管理費	15,000円 34,100円
小計	49,100円
合計	564,810円

※マイナス分は追加申請、他予算にて対応。

#### 6. メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	2	北谷 優希	特別支援
2	2	中西 由梨	特別支援
3	2	櫛田 紗彩	特別支援
4	2	三浦 千沙	特別支援
5	2	井村 友美	特別支援
6	2	横井 裕香	特別支援
7	2	岩見 果朋	特別支援
8	2	木全 真優	特別支援
9	2	武田 涼花	特別支援
10	2	外 有那	特別支援
11	2	藤塚 悠希	特別支援
12	2	柘植 香穂	特別支援
13	2	畑田 光嬉	特別支援
14	2	山本 幸	特別支援
15	2	大久保 咲良	特別支援
16	2	三門明 千夏	特別支援
17	2	鈴木 翔子	特別支援
18	2	山崎 大成	特別支援
19	2	武藤 豊	特別支援
20	2	久保田 朝陽	特別支援
21	4	平岩 みなみ	特別支援
22	教員	小倉 靖範	特別支援